

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

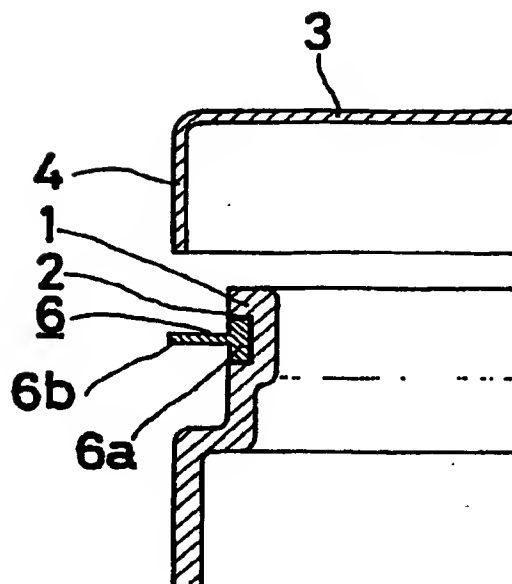
Title of Invention: Seal Element for Hermetic Container
Publication Number: Japanese Utility Model Application Laid-Open
 Sho58 No.82366
Publication Date: 3 June 1983 Priority Country: Japan
Application Number: Japanese Utility Model Application Sho56
 No.177508
Application Date: 28 November 1981
Applicant: K.K. Ejirii
Number of Other Applicants: 0
Inventor: M. Ejiri
Number of Other Inventors: 0
Int. Cl.³: B65D 53/02

Configuration:

The seal element is described in reference to Fig.2(a). As illustrated, a container or a porcelain vessel (1) is disposed with a recessed groove (2) on upper and outer periphery of the vessel (1). The vessel (1) is covered with a lid (3) made of a metallic material such as stainless steel. The lid (3) is provided with annular belt portion (4) provided around outer periphery of the lid (3). Meanwhile, a packing (6) is inserted into the groove (2), which is made of silicone rubber. The packing (6) comprises an annular belt-like portion (6a) and a flange portion (6b) which protrudes outwards from center of external surface of the belt-like portion (6a). Before the lid (3) is fitted onto top of the vessel (1), the flange portion (6b) extends horizontally outwards. After the lid (3) is fitted, the flange portion (6b) bends downwards so that upper surface of the flange portion (6b) forms a contact area against interior surface of the belt portion (4) of the lid (3) so as to achieve a hermetic sealing between the lid (3) and the vessel (1).

4/11/5

Fig.2(a)



公開実用 昭和 58—82366

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報 (U)

昭58—82366

⑫ Int. Cl.³
B 65 D 53/02

識別記号

庁内整理番号
6564—3E

⑬ 公開 昭和58年(1983)6月3日

審査請求 未請求

(全 17 頁)

⑭ 密閉容器のシール部材

瀬戸市本郷町637番地株式会社
エジリー内

⑮ 実 願 昭56—177508

⑯ 出 願 人 株式会社エジリー

⑰ 出 願 昭56(1981)11月28日

瀬戸市本郷町637番地

⑱ 考 案 者 江尻守矩

⑲ 代 理 人 弁理士 松波祥文

BEST AVAILABLE COPY



○

明 細 書

1 考案の名称

密閉容器のシール部材

2 実用新案登録請求の範囲

- (1) 容器(1)の上方周縁部にパッキン(6)を嵌装し、
これに上蓋(8)を被装してなる密閉容器において、
容器(1)上方の外周縁部又は内周縁部に凹溝(2)
を設け、該凹溝(2)に嵌着支持したパッキン(6)に
、外方又は内方への張出し部(6b)を折曲自在
に突設したことを特徴とするシール部材。
- (2) 実用新案登録請求の範囲第1項に記載の密閉
容器において、容器(1)を陶磁器製とし、上蓋(8)
を金属製とし、パッキン(6)をシリコンゴム製と
したことを特徴とするシール部材。
- (3) 実用新案登録請求の範囲第2項に記載の密閉
容器において、パッキン(6)の半断面形状を横T
字形、L字形、楔形等としたことを特徴とする

公開実用 昭和 58— 82366



○ シール部材。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、主として金属製の蓋付きの小形密閉容器、所謂キャニスターのシール部材に関するものである。

その目的とする処は、蓋側を金属製とし、容器側を陶磁器製とする此種の密閉容器において、蓋と容器との間を密閉するに、容器側が陶磁器製である場合には焼成時の収縮、焼成後の歪等によって、一律大の容器が製作され難いものである。その為、此等兩者の間のパッキンも市販の単なるOリング等で代用し難く、応々にして僅間が形成され、常に良好なシール効果を期し難いものであった。

本考案は、斯様な前記諸点に鑑み、主として容器側を陶磁器製とし、蓋側を金属製とする小型密閉容器、所謂キャニスターにおける良好な密閉機能を達成するシール部材を提供せんとしたものである。



○

本考案の実施例を添付図面に従って説明するに、(1)は陶磁器製、具体的には磁器製の容器、(2)は容器(1)上方の外周縁部に設けた凹溝、(3)は金属製、具体的にはステンレス製の上蓋、(4)は上蓋(3)の外周縁部に垂下形成した環状の帯板部、(5)は上蓋(3)の頂部に固着した半弧状の把手、(6)は容器(1)と上蓋(3)との間に介装されるシリコンゴム製のパッキンであって、前記凹溝(2)に嵌合支持される環状の帯板部(4a)と、該帯板部(4a)の中央外周部に外方へ突出し形成した銜部(4b)からなり、通常、容器(1)に上蓋(3)を仮装する前には横丁字状の半断面形態を呈し、これに上蓋(3)を被装した後は銜部(4b)の外周縁部が上蓋(3)側の帯板部(4)の内周面に密着状に貼り付いて支持される。

而して、陶磁器製の容器(1)上方の外周縁部に設けた凹溝(2)に、シリコンゴム製のパッキン(6)を引き伸ばし乍らその帯板部(4a)を嵌め込み、該帯板部(4a)の中央外周部から外方へ銜部(4b)を横

公開実用 昭和 58—82366



- T字形に張出し形成し、第2図(a)に示すような状態とする。その上で、上蓋(8)を上方から嵌め込めば、鋸部(6b)の外周縁部が押し曲げられ、第2図(b)に示すように帯板部(4)の内周面に密着状となり、これにて容器(1)と上蓋(8)との良好なシール機能を果たす。

尚、本考案ではパッキン(6)の半断面形状を横T字形のもので説明したが、第4図(a)~(d)に示すような半断面形状、具体的には図(a)のパッキン(6)の場合は、横L字状を、図(b)の場合は楔形状を、図(c)の場合は片流れ形状を、図(d)の場合には起伏タワー形状を夫々呈するも、何等その要旨を変えるものではない。

また、本考案では容器(1)上方の外周縁部に凹溝(2)を設け、該凹溝(2)に外方への張出し鋸部(6b)を有するパッキン(6)を嵌合支持した密閉容器について説明したが、第5図に示すように容器(1)上方の内周縁部に凹溝(2)を設け、該凹溝(2)に内方への張



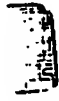
- 出し部(6b)を有するパッキン(6)を嵌合支持し、これに上方から上蓋(8)を嵌合することにより、容器(1)と上蓋(8)との間を密閉すべく変様するも、何等本考案の要旨を変えるものではない。

本考案は、前記のように容器の上方周縁部にパッキンを嵌装し、これに上蓋を被装してなる密閉容器において、容器上方の外周縁部又は内周縁部に凹溝を設け、該凹溝に嵌着支持したパッキンに、外方又は内方への張出し部を折曲自在に突設したシール部材としたので、これにより密閉容器における良好なシール効果を達成するのみならず、容器と上蓋のいずれか一方を陶磁器製とし、他方を金属製とする場合のシール部材として融通性に優れ、特に陶磁器製の容器又は上蓋が焼成時の収縮、焼成後の歪等による多少の変形にも有用に対処し得る等の実用的諸効果をもたらす。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、密閉容器の半断面図、第2図(a)、(b)

公開実用 昭和 58— 82366



- は上蓋を被装する前後の要部拡大図、第 3 図(a)、
(b)はパッキンの平面図と正面図、第 4 図(a)~(d)は
パッキンの第 2 ~ 5 実施例を示す半断面図、第 5
図は密閉容器の第 2 実施例であって、容器上方の
内周縁部に凹溝、パッキンを設けた場合を示す要
部拡大図である。

符 号 表

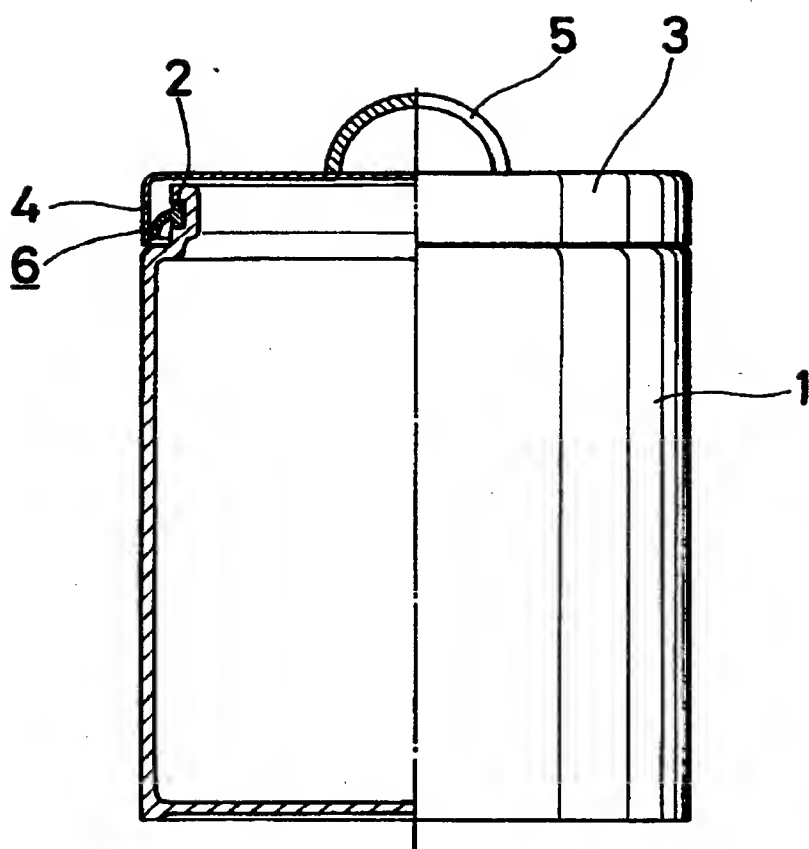
- | | | |
|----------|----------|----------|
| (1) 容 器 | (2) 凹 溝 | (8) 上 蓋 |
| (4) 帯板部 | (5) 把 手 | (6) パッキン |
| (6a) 帯板部 | (6b) 鈎 部 | |

出願人 株式会社 エ ジ リ ー

代理人 弁理士 松 波 祥 文

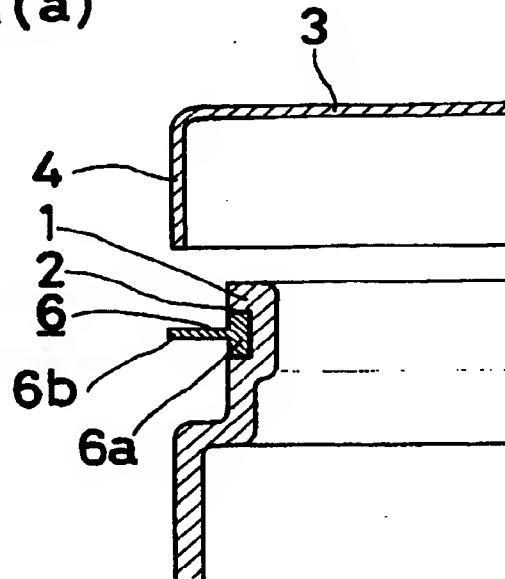


第1図

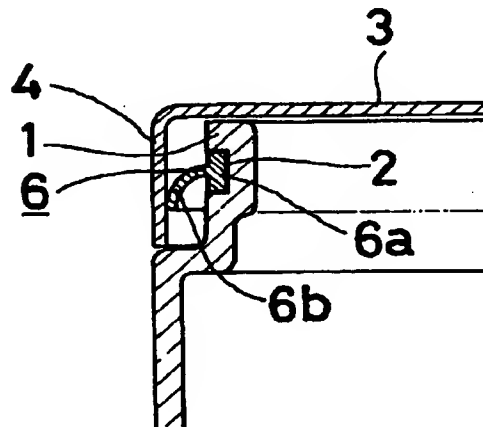


577- 366
2.21 56
支 5.8

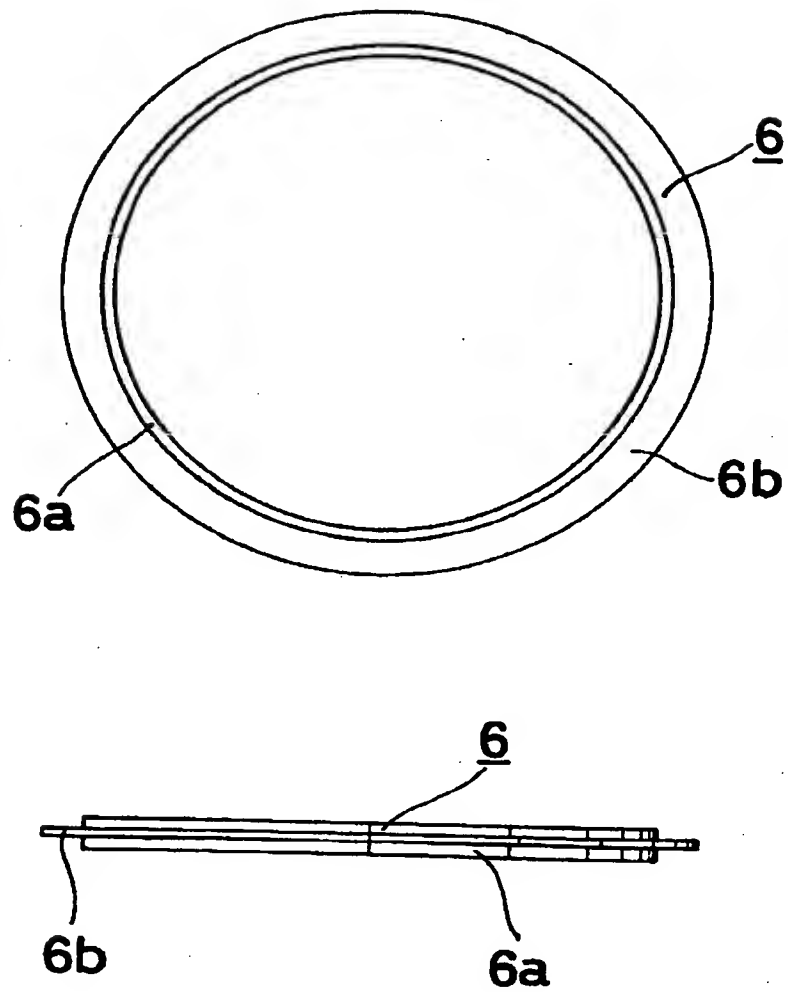
第2図(a)



(b)

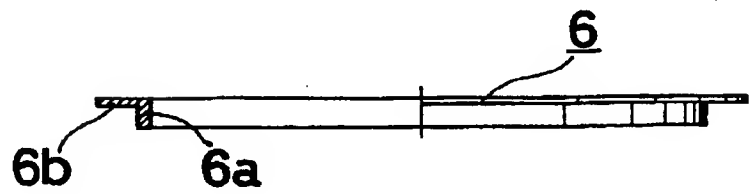


第 3 図

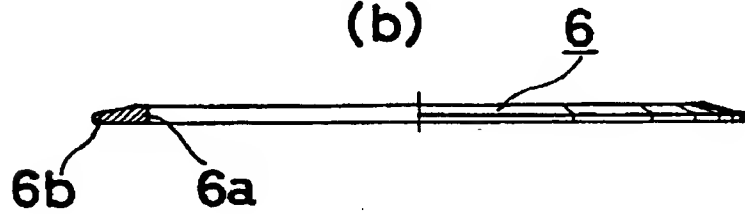


573

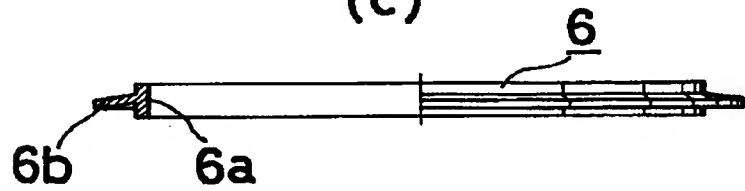
第 4 図(a)



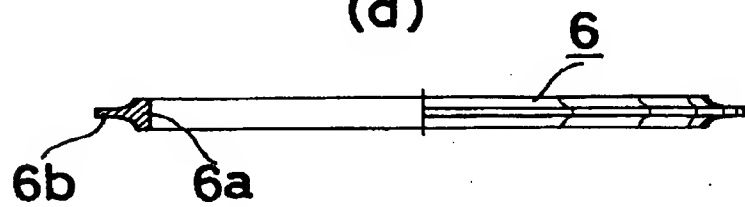
(b)



(c)



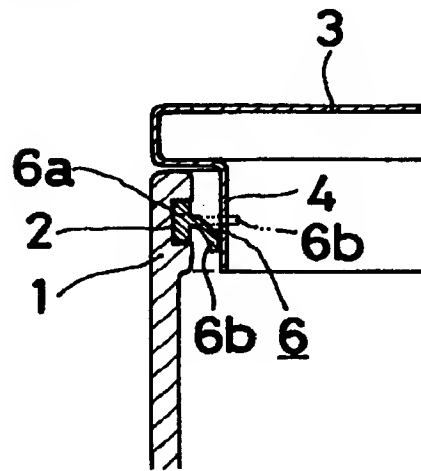
(d)



500

500 }

第5図



581

" " } 66

公開実用 昭和 58-182366

手続補正書(方式)

昭和 57. 4. 12 日

殿



特許庁長官

1. 事件の表示

昭和56年実用新案登録願ネ177508号

2. 考案の名称

密閉容器のシール部材

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

住 所

名 称
(氏 名)

株式会社 エジリー

4. 代 理 人

(〒460)
住 所 名古屋市中区千代田2丁目19番4号

氏 名 弁理士(6866) 松波祥文



5. 補正命令の日付 昭和57年 3 月 5 日



6. 補正の対象

添付図面ネ3図



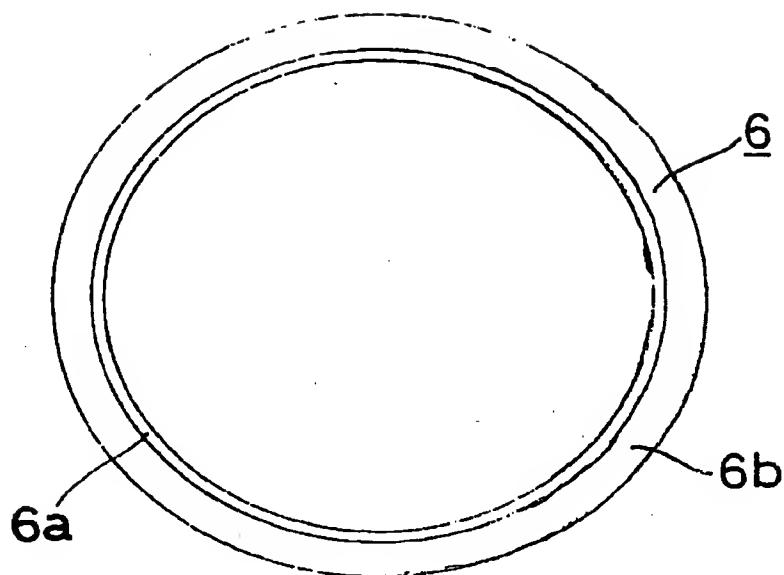
7. 補正の内容

別紙の通りネ3図に符号(a)、(b)を加入する。

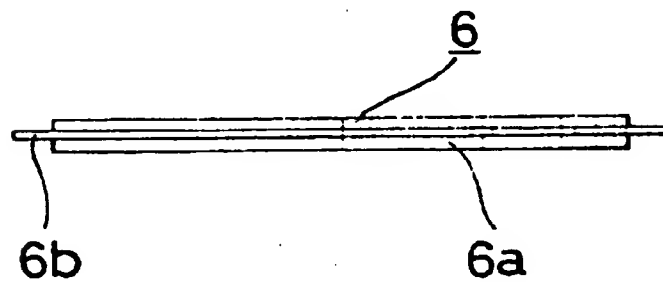
582

実開58-82366

第3図 (a)



(b)



137

583

実開58-82366

本 57, 8, 12,

公開実用 昭和 58- 82366

手続補正書

適

57.6.28

昭和 57 年 6 月 28 日



特許庁 長 官

殿

1. 事件の表示

昭和 56 年実用新案登録願第 177508 号

2. 考案の名称

密閉容器のセール部材

3. 補正をする者

事件との関係 実用新案登録出願人

住 所 愛知県瀬戸市本郷町 6 8 7 番地

名 称 株式会社 エ ン ー
(氏 名)

4. 代 理 人

住 所 (〒460)
名古屋市中区千代田 2 丁目 19 番 4 号

氏 名 弁護士 (6866) 松 波 祥 文



5. 補正命令の日付 昭和 年 月 日 (発送日)

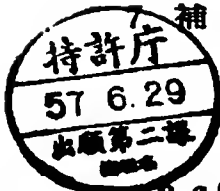
自 発

6. 補正の対象

願書中の「考案の名称」、明細書中の「実用新案登録請求の範囲」、「考案の詳細な説明」の各欄

7. 補正の内容

別紙の通り



584

実開58-82366



○ 実願昭 56-177508号

7. 補正の内容

- (1) 願書の「考案の名称」を、「密閉容器のシール部材」と補正し、訂正願書も補充する。
- (2) 実用新案登録請求の範囲の欄を別紙の通り補正する。
- (3) 明細書第2頁第7, 8, 15行、第3頁第2, 15行、第5頁第12, 14行に夫々「陶磁器製」とあるを、「陶磁器製、ほうろり製又はガラス製」と補正する。
- (4) 同、第2頁第12行に「僅間」とあるを、「隙間」と補正する。
- (5) 同、第3頁第11行に「丁字状」とあるを、「T字状」と補正する。

以 上

公開実用 昭和 58—182366



実用新案登録請求の範囲

○

- (1) 容器(1)の上方周縁部にパッキン(6)を嵌装し、
これに上蓋(3)を被装してなる密閉容器において、
容器(1)上方の外周縁部又は内周縁部に凹溝(2)
を設け、該凹溝(2)に嵌着支持したパッキン(6)に
、外方又は内方への張出し部(6b)を折曲自在
に突設したことを特徴とするシール部材。
- (2) 実用新案登録請求の範囲第1項に記載の密閉
容器において、容器(1)を陶磁器製、ほうろう製
又はガラス製とし、上蓋(3)を金属製とし、パッ
キン(6)をシリコンゴム製としたことを特徴とす
るシール部材。
- (3) 実用新案登録請求の範囲第2項に記載の密閉
容器において、パッキン(6)の半断面形状を横T
字形、楔形等としたことを特徴とするシール部材。

以 上